



イメージキャラクター「文字朗」

磐田市歴史文書館

もんじょかん

文書館だより

令和6年3月8日

第 23 号

磐田市教育委員会教育部文化財課 歴史文書館

所蔵品紹介

やまなかきょうこ

せんこうじぼんしょうたくほん

山中共古が赤松家へ贈った「宣光寺梵鐘拓本」

～赤松家資料から～

令和5年は、NHK大河ドラマ『どうする家康』ブームとなり、当館でも1月～3月に企画展を開催し、多くの方々にご来場いただきました。まだまだその余韻よゐんが残っているところですが、そのような中で、当館所蔵の見付・宣光寺の梵鐘銘文の「拓本」を紹介します。

市指定文化財の宣光寺の「梵鐘」（口径 51.5 cm、高さ 90 cm）は、徳川

家康が天正15年（1587）に寄進したもので、そのいきさつは銘文に刻まれています。その銘文の拓本が赤松家資料にあります。

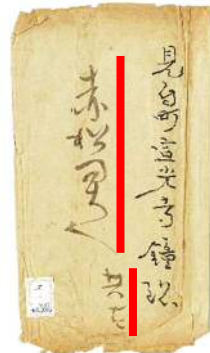
拓本の包みの上書きには、「赤松君へ 共古」（右写真赤線部分）とあり、山中共古が赤松則良の長男・範一に贈ったものであることがわかります。

山中共古は、今日で言うところの民俗学者として知られ、明治38～40年の2年間、キリスト教メソジスト教会の牧師として見付教会に赴任しました。赤松範一も民

「宣光寺梵鐘拓本」（一部）
赤松家資料



「宣光寺梵鐘」



梵鐘拓本の包み

俗学の造詣が深く、同学の士として共古との交流があったのだと想像できます。

共古は、見付教会在任中に、見付を調査して『見付次第』を著しました。ここに、「此寺に家康公寄附の鐘あり、銘に・・・」としてこの銘文を載せ、「此鐘を予このかね（私＝共古）よ明治四十年五月四日に発見し、同年五月発行の集古会雑誌にこれに関し記るし置きたれば、此処に再記せず」と記しています。なお、共古は『集古会雑誌』の中で、「寄附者（家康）といひ、郡名（※豊田郡）といひ、史上及地理上に参考たるべき古鐘なれば貴重し保存され度（たき）ことなり」と梵鐘の重要性を訴えています。

※文中、「見付は磐田郡にあらずして天正年間には豊田郡なることを知る」と記しています。



「遠々みます」
赤松家資料

このほか、共古からは、七代目市川団十郎が見付の裸祭りの内容を著した
※『遠々見ます』が贈られています。

※「遠江(ととおみ)」と市川家の家紋「三(み)杓(ます)」を掛け合わせた題名

現在、磐田市立図書館電子図書館で公開中です。現存する6冊のうち、2冊を当館で所蔵しています。



探してます！

昔懐かしの写真を募集

2025年は、「昭和」に改元されてから100年目を迎えます。当館では、市内の風景・行事・災害など当時の様子がわかる写真を収集しています。

写真をお持ちで、寄贈・複写または公開を許可していただける方はご連絡ください。

- 募集内容 磐田市内で撮影された写真で、おおよその撮影年や場所がわかるもの。
(受け入れは、当館職員の判断となります)

巡回展

大地を潤す寺谷用水

豊岡東交流センターでロビー展示を開催します。昨年当館で開催した第27回企画展「大地を潤す寺谷用水」より、内容を一部変更して展示中です。ぜひ、ご覧ください。

期間 令和6年3月7日(木)～3月31日(日)

場所 豊岡東交流センター(磐田市敷地1187-3)

休館日 月曜日、祝日 入場料無料



当館では、個人や自治会などの所有資料も収集しています。保存に迷われていましたら、ご連絡ください。寄贈された資料は“〇〇家所蔵文書”“〇〇自治会文書”として大切に保存し、皆様の郷土研究や町づくりに役立つように公開させていただきます。



発行：磐田市教育委員会教育部 文化財課
磐田市歴史文書館

住所：〒438-0292 磐田市岡729-1
竜洋支所内

電話：0538(66)9112

FAX：0538(66)9722

Mail：chiikishi@city.iwata.lg.jp

休館日：土日・祝日・年末年始

開館時間：午前9時～午後4時30分